

労務相談や給与計算の代行など人事労務全般のサービスを提供するSen社会保険労務士法人(広島市)のテレワークの取り組みを紹介します。実施状況やメリットなどについて代表社員の石山洋平さんに聞きました。

## Sen社会保険労務士法人(広島市)

# 進む在宅ワーク 監視でなく信頼の目で



代表社員  
石山洋平さん

### —いつからどんな業務でテレワークを取り入れていますか。

2、3年前から、従業員の体調がすぐれないときなどにテレワークを取り入れていました。本格的に導入したのは、新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が発令された2020年4月からです。相談業務や人事労務のコンサルティング業務を行っているアドバイザー課、労務事務・給与計算の代行を行っているアウトソーシング課、個人の障害年金の申請代行業務を行っている障害年金課など全ての部署でテレワークを行っています。

### —どのような情報通信技術(ICT)を整備しましたか。

以前から、チャットやカレンダー機能などのクラウドシステムを整備していました。新たに導入したのはVPN(仮想私設網)とWEB会議システム、ネットワークを使ったIP電話、ノートパソコンです。パソコンはデスクトップ型がメインでしたが大半をノート型に変更し、VPNの導入で社外からでもデータやシステムに安全にアクセスできる環境をつくりました。顧客とのコミュニケーションはWEB会議システムを活用しています。加えて、タブレット端末とタッチペンも用意しました。在宅では印刷ができず、プリントした紙に直接書き込んでチェックする作業が難しいという声があったからです。タブレット端末の画面に手書きすることができ、ペーパーレス化にもつながっています。ノートパソコンで顧客と相談しながら、タブレット端末に資料を提示して、重要な部分にペンで印を付けて見てもらうこともしています。2画面で対応することで、スムーズに業務を進めることができます。

### —テレワークを導入してよかった点は。

「やってやれないことはない」「変化に強くなった」など、目に見えないマインドを得たことです。テレワークを通じて、問題が起こったときに解決方法を見つけ、実践してやり遂げるという体験ができました。

具体的なメリットを挙げると、コロナ感染のリスクが減り、通勤の負担が軽くなったこと、結婚や転勤が原因の離職を防ぐことがあると思います。一人で集中したい業務のときは、能率が上がったという意見もありました。

### —注意していることや課題はありますか。

コミュニケーション不足にならないように心掛けています。各課でWEB会議システムを使って朝礼と終礼を毎日実施しています。ささいなことも情報共有して、難しい点を見つけたら、



タブレット端末とタッチペンを活用し  
テレワークを進める様子

できるだけ吸い上げて改善につなげるように努力しています。課題は、セキュリティー面の強化です。情報を収集し、さらなる設備の拡充や社内ルールを整備などを検討しています。

### —テレワークを円滑に進めるためのポイントは。

従業員の姿が見えないので、労務管理や人事評価などのルール作りに戸惑う企業は多いと思います。重要なのは、従業員を監視するのではなく、信頼するというスタンスに立つことでしょう。人物評価になりがちな人事評価の仕組みを客観的な形にする工夫も大切です。

テレワークは個人の裁量に任せる部分が大きくなります。従業員は自由が増える分、責任も増します。お互いの信頼関係をしっかり築いていけば、前向きに仕事に取り組むきっかけにもなり、会社全体の成長にもつながると考えています。

### 現場の声

アウトソーシング課  
古瀬 歩香さん



### 情報共有を密に 業務改善へ

給与計算や労務事務手続きを20年4月からテレワークで行っています。顧客データへのアクセスや電話、印刷などは難しいと思っていましたが、会社が迅速に環境を整えてくれたので、今では特に困ることはありません。

課内の情報は毎日、チャットとWEB会議システムを使った朝礼と終礼で共有しています。各業務の進み具合やスケジュールをデータ化し、全員で確認するようになりました。「言わなくても分かっているはず」という思い込みがなくなり、スピーディーに業務が進むなど改善につながりました。